

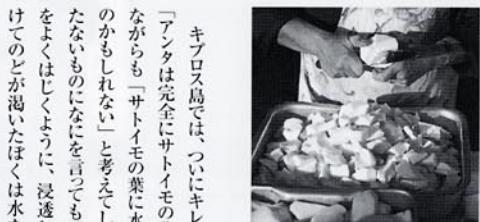
# イモ言葉いろいろ

Peter J. Matthews (ピーター・J・マシウス)  
研究戦略センター

ぼくは長年サトイモを調査してきた植物学者である。隣の芝生は青く見えなくなることもあるが、ぼくはこのぬるぬるしてえぐいイモの研究に身を捧げてきた。サトイモについて、世界中でいろんなことが言われている。必ずしもいいことばかりではない。祖国ニュージーランドのある料理研究家は、サトイモの味は壁紙を貼るのりのようだと書いている。しかし各国の人びとは、それぞれお得意の育て方や調理の仕方を心得ているのだ。そのニュージーランドの料理研究家は無知なだけだったんだろう。サトイモを求めて三千里。ぼくは世界の各地でサトイモの調査をしてきた。サトイモにかけ



ミャンマーの渓流沿いに育つ野生のサトイモ



キプロス島の台所で

元の人びと元の人びと  
にわかつてもにわかつても  
らうのはひらうのはひ  
と苦労だ。と苦労だ。  
たいがい無視  
されれる。

聞き取りりを  
しようにも、  
しゃうにも、  
といふと雨を降らす。野生のサトイモの生え

きプロス島では、ついにキレたぼくはこう叫ぶ、「アンタは完全にサトイモの葉だ!」。そう言いながらも「サトイモの葉に水をかけるようなものかもしれない」と考えてしまう。聞く耳をもたないものになんにを言つても、サトイモの葉が水をよくはじくように、浸透しないのだ。叫び続

けての人が渴いたぼくは水をがぶがぶと飲む。するとキプロスの農民は言うのだ。「サトイモみたに水を飲むやつだな」。「そんなんにサトイモが好きなら、カルバジに行くな。繁盛するよ」。

確かにキプロスのカルバジは水に恵まれ、サトイモがよく育つところ。だがぼくの次なる目的地はエジプトだ。カイロの旧市街の市場を歩くと、あちこちでサトイモが売られているのを目にする。

じつは、危険をおかして遠くへ出かけずともサトイモを観察できるよう、京都桂川沿いの小さな煙でサトイモを育てようとしているのだが、どうもうまくいかない。肥料や水をやりすぎた

り、逆に足りなかつたりと、何をやつてもうまくいかない。温暖化のせいだと八つ当たりする始末。

煙の仲間たちはこどとく頭を横にふつて呆

る情熱を地  
ナイルには確かに水がある。

ヤンマーも水には事欠かない。東南アジ  
アの真ん中、モンスーンが山岳地帯に  
どうと雨を降らす。野生のサトイモの生え

きのかもしだれない」と考へてしまふ。聞く耳をもたないものになんにを言つても、サトイモの葉が水をよくはじくように、浸透しないのだ。叫び続

けての人が渴いたぼくは水をがぶがぶと飲む。するとキプロスの農民は言うのだ。「サトイモみたに水を飲むやつだな」。「そんなんにサトイモが好きなら、カルバジに行くな。繁盛するよ」。

確かにキプロスのカルバジは水に恵まれ、サトイモがよく育つところ。だがぼくの次なる目的地はエジプトだ。カイロの旧市街の市場を歩くと、あちこちでサトイモが売られているのを目にする。

じつは、危険をおかして遠くへ出かけずともサトイモを観察できるよう、京都桂川沿いの小さな煙でサトイモを育てようとしているのだが、どうもうまくいかない。肥料や水をやりすぎた

り、逆に足りなかつたりと、何をやつてもうまくいかない。温暖化のせいだと八つ当たりする始末。

煙の仲間たちはこどとく頭を横にふつて呆

る顔で言う。

「芋頭で足をついたな(うかつな)ことをした」。

「芋の煮えたも(芋)存じない」。

地主にいたことは、あいつと付き合つるのは、「す

りこぎで芋をもる(不可能なことをする)よう

なもんとすよ」と言う。

ほつといってくれ。芋助とよばれようが、芋頭でも頭は頭だ。ぼくの飽くなきイモ探索は続く。